

未来への伝承

155

無心で遊ぶ子どもの姿—岡部洞水「唐子図」



岡部洞水「唐子図」



上の絵には、虫やおもちゃで遊ぶ5人の男の子が描かれています。服や髪型は中国風で、このような子どもを「唐子」といいます。

向かって左側、とんぼ釣りをしている唐子に注目してみましよう。とんぼ釣りとは、細い竹の先に糸で雌のとんぼを結びつけ、雄を誘い寄せて捕らえる遊びです。真剣な表情で、このままとんぼを追ってどこかにいってしまいそうです。「とんぼ釣り今日はどこまでいったやら」の句が浮かんできました。ほかの2人はおもちの車に夢中です。車に手を伸ばしている唐子の上衣は薄く、幼子のふっくらとした身体が透けて見えています。

向かって右側の2人は寝転んだり、しゃがんだりしてこま回しをしています。こまは右側の唐子の手から離れたばかりで勢いよく回っています。

左側には躍動感のある唐子を、右側には静かに集中する唐子を配して、はっきりした対比を画面につけた絵師は、岡部洞水(1780頃〜1850)といい、土浦藩

士で祖父も父も画業を専門にしていました。洞水は幕府の表絵師筆頭、駿河台狩野家の洞白愛信(1772〜1821)に学んで、師匠から洞水愛敬と名のることを許されました。唐子は狩野派の絵師が好んで描いた画題のひとつです。

いきいきと描かれる唐子だけがこの絵の魅力ではありません。背景に描かれたタチアオイは夏の光を浴びて輝き、シユロは青々として手入れが行き届いた庭木として描かれるなど、この絵の舞台装置が特段に丁寧な筆遣いで描かれているのです。雄のとんぼは胴体が鮮やかな水色で、雌の胴に結びつけられた赤い絹糸が竹竿にしっかりと結びつけられているさまも現実的です。

洞水には「牡丹に蝶図」という作品があります。牡丹の美しさもさることながら、花に群れ飛ぶ3種の蝶の姿形と羽の模様を細かく描き分けました。根気よくとんぼや蝶を観察していなければ描けないのではないかと、小さな虫に特段の筆の冴えを見せる洞水の筆遣い

に、そんな思いがわき上がってきます。

ところで、この絵が入っていた箱には「玉寿院様御遺物(玉寿院様の形見)」と書かれていました。「玉寿院」が誰かは分かりませんが、大名の子女であったようです。土浦藩主土屋家が結婚や出産の祝賀として洞水の絵を贈ったのかもしれないと。鮮やかな色彩で描かれた元氣な男の子の絵は、武家の女性に眺めて楽しむのにふさわしい作品と言えましょう。表具を直すのに際し、大名の子女の持ち物であったのにふさわしい朱色の華やかな軸に付け替えました。

さて、博物館では、昨年7月に開館30周年を迎えたことを記念して、この絵を用いた一筆箋を販売しています。向かって左側のとんぼ釣りの唐子が表紙です。眺めてよし、贈ってよし、土浦藩の絵師の作品をお手元に置いてみませんか。

※この絵画は、6月30日(日)まで春季展示でご覧いただけます。

岡市立博物館(☎824・2928)